

第3回新宿区文化芸術振興会議（第6期）要旨

■開催日時 令和3年12月10日 午後2時から午後4時まで

■開催場所 新宿区役所本庁舎6階 第3委員会室

■出席者

委員 高階秀爾 垣内恵美子 星山晋也 松井千輝 的場美規子

大野順二 大和滋 岡室美奈子 飯田直子（欠席 中島隆太）

*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順(会長・副会長を除く)

事務局 小泉文化観光産業部長 菊地文化観光課長 原文化観光係長 加藤

小川新宿駅周辺基盤整備担当課長 桃原新宿駅周辺まちづくり担当課長

■議事の進行

1 開会

(1) 高階会長が文化芸術振興会議の開会を宣言し、開会した。

(2) 本日の進行について、次第に沿って進行することを確認した。

2 新宿駅周辺地域の開発について

小川新宿駅周辺基盤整備担当課長及び桃原新宿駅周辺まちづくり担当課長が、新宿駅周辺の開発状況について説明を行った。

【以下、質疑応答】

・まちづくりの方向性として、「新宿に訪れる誰もが自由に行き交うことができ、活動しやすい歩行者空間を創出する」とあるが、実際にまだに実現はできないと思っている。というのも、都市計画がいろいろ進められ、地下通路ができたが、新宿駅に詳しい方にとっては非常に便利でも、そうでない方にとっては未だ不便に感じることも多いと思う。

・新宿駅の分かりにくさというのはとても有名な話というか、迷路のようになっているので「リアルダンジョン」と呼ばれているぐらい、分かりにくいところがあると思う。

・例えば、駅から徒歩何分とか行き先を調べても、駅の出口とか駅の使い方によって、徒歩何分というのもあてにならないのが現状と思う。新宿駅周辺はやはり大きいので、誰もが分かりやすく行きやすい、迷うことのない、その辺の工夫というか標識であったり、表示であったり、本当に外国人の方はなおさら分かりにくいと思うので、その辺の工夫をしていただけたらいいと思う。

・大変夢の膨らむ内容だと思う。広場という言葉が何度も出たが、新宿のよさを考えたときに、やはりその広場性のようなことにあると思うし、文化が一極集中しないところも新宿のよさと思うが、このように整えていったときに、新宿の個性というものをどのように考

えているかということをもう少しお伺いしたい。

- ・駅周辺に立派なビルがボンボンと乱立している状況は、ほかのまちと区別がつかなくなるのではないかとことを危惧する。

- ・地下が整備されていくのは非常に便利であると思うが、渋谷の地下が整備され過ぎて、地上に人が行かなくなったというようなこともあり、その辺の対策も教えていただければと思う。

- ・資料に広場の整備とあるが、小田急はもう工事が始まる。小田急と京王は、これは、位置は移動して広場を広げていくのか、そこら辺が少し分りにくい、

- ・劇場が、幾つか分散的に、明治安田生命のビルにも1つできるということがあり、そこら辺についての相互的な関連性とかを都市計画上考えているのか、完全に個別にその事業者に任せて、勝手にやってくださいということなのか。新宿区として何らかの汎用性を持たせるとか、何か特徴を持たせるとかという方向性を持っているのかというようなことが気になった。

- ・いろいろな意味での関連性とか。そうしないと何かバラバラになってしまう可能性もある。

- ・それと、西口のスマートシティ構想が進んでいると思うが、そことの関連性とかそういうものがあるのか。

- ・ビルがボコボコ建つと、逆に、西口の失敗と言っては変だが、ビジネス街だけになってしまうと、土日にな人がいないというようなことになっていくので、そこら辺との関係性で、何か考えているのか。

- ・私もそうだし、結構海外の方も、自転車を利用する方がすごく多いと思う。このように広場ができると、人も滞留するが、自転車の通行等に関して、あるいは駐輪場等、自転車がとめられることに関してはどのようにお考えか教えていただけるか。

- ・これは多分、誘導型地区計画と思うが、どういう方向に誘導しているのか。今の話だと1階部分、低層部分に集客施設、高層部分に宿泊とかビジネスとかという形になっているかと思うが、そうだとすると、広場やデッキとかは、どういう形で利用するのか。例えばパフォーマンスや、何らかのイベントなどにも使えるような形なのか、公開空地みたいな形でそのまま置いておくのかというあたり、どういう目的で何を誘導しようとしているのかというところを、もう少しご説明いただければ。

- ・資料に「次世代の技術導入の可能性に果敢に挑戦する」と書いてあるが、どう考えているのか教えていただければ。新宿は、飛び出る猫とか、泳ぐクジラとかが、うちの大学の外国人留学生の間でも結構有名になっている。

- ・今のお話で、東西自由通路ができたときに、特に外国の方はどう行くか。「地下通路がこっちにあるよ」と言っても、電車を降りた人は、どこから行ったらいいのか。駅にしてもバスにしても、これだけ複雑であれば、案内板とそれから指示のデザインというか、あちこちにつくっていただかないと、使えなくなると思う。それはぜひお願いしたい。

・建物も非常に立派な高層ビル。ほかでもそうなのだが、何々ビルを目印にといっても、どれが何ビルだか分からない。ビルに何も書いていない。外国の方は特にそうだと思う。

・使う人が分かるように、あれが何ビルとか、入口とか。これは新宿ではないが、「何ビル入口から入ってください」というような会議の案内などをもらっても、何ビルだかよく分からない。入口辺りに行くと、コンビニか何かがあって、そこがそうなのかよく分からない。使えるような指示、案内のデザインも、ぜひ含めていただきたい。

（事務局）

・まず分かりづらいというところについては、明治18年（1885）に新宿駅ができ、京王線ができたり小田急線ができたりとか、バラバラに開発が進められてきて、継ぎ足し継ぎ足しみたいな駅になったため、相当分かりづらい。

・ただでさえ7路線8駅があり、そういうターミナルはなかなかないと思う。それぞれバラバラにつくってきたといったところがあり、そういったところがそその課題だろうといったところもあるので、まず一体的にどういう形で開発していけばいいのかといったところで、東京都、新宿区、それから鉄道事業者なども入り、先ほど紹介した新宿の拠点再整備方針を策定した。

・その中で、既存の部分を利用しながら開発を進めていくというような部分もあるので、できる範囲も限られているようなところも若干あるが、その中でも動線などを整えたりとか、そういったことをやっていこうといったところで、今、進めている。

・個性あるまちはこういった形で考えているのかというようなご質問もあったかと思う。元々ターミナルの課題として、新宿駅周辺については歌舞伎町や東口、それから西新宿とか、そういったすごくいい個性を持ったまちがある。結構狭い範囲でそれだけのものが集積しているというのは、他の都市でもなかなか見られないのかと思う。

・その割には、東西の行き来がしづらかったりとかの課題がある。東西自由通路は令和2年7月に開通したが、他にも東西の線路の上空のデッキなど、動線的にも東西をしっかりつなぐ、もしくは南北についても、デッキなどでつなぎ、しっかりまち同士が連携できたりだとか、駅から人がしっかり流れていく。そういったところを目指して進めている。

・地下通路について、「便利になり過ぎて下にばかり行ってしまう」みたいな話もあったと思うが、新宿駅の北東部地下通路線、西武新宿駅と東京メトロ丸ノ内線をつなぐ地下通路を整備していくこととしている。これだけの大きなターミナルで東西の連携、南北の連携をつないでいく地下通路については、まだ未整備な部分があるのかといったところで、しっかり整備していきたいという考え方で進めている。

・広場を広げていくのかといった質問について、広場の面積は基本的には今と同等の規模になる。西口の駅前広場では、今は中央のところに都市計画駐車場、駐車場に入っていくぐるぐる回るような車路があり、その北側にバス乗り場とかがあったりして、車中心の駅前広場になっている。

・それを人中心の駅前広場に変えていこうといったところで、地下駐車場への車路につい

ては、今は解体された駅前広場の西側にあったスバルビルの方に車路を移設して、そのところで地下の駐車場に入っていくようにしていく。

- ・バス・タクシーについても方面別、北側とか南側の方面別に振り分けて、中心を歩行者の使いやすいような広場に変更していこうと考えている。

- ・案内が分かりづらいということについては、東京 2020 オリンピック・パラリンピックを目指して、今の段階で、分かりやすいように全部統一した案内サインに変えている。

- ・これから駅の再編に向けては、さらに検討を深めて、こういった案内サインがいいのかといったところについても、引き続き検討していくということとしている。

- ・自転車についての基本的な考え方としては、駅前広場については、自転車も含めた車中心から人中心に、自転車もなるべく駅前広場に流入させないで、周辺のところに駐輪場を確保していくという考え方に基づいて進めている。

- ・具体的に「どの場所に何台整備するのか」といったところまでは検討に至っていないが、基本的な考えとしては、なるべく駅前広場には自転車を入れないようにして、周辺のところで駐輪施設を確保していくことを考えている。

- ・ただ、全く駅前広場に入れないというのなかなか難しい部分もあるので、検討をこれから深度化していったら、こういった方法がいいのかを考えていきたい。

- ・新宿駅周辺には、それぞれ異なる個性を持ったまちが存在しているので、歌舞伎町は歌舞伎町の地区計画、西新宿は西新宿のまちづくり指針、新宿駅直近は直近地区の地区計画があり、まちづくりの方向性や地区計画が一つということはない。

- ・ホールで言うと、例えば歌舞伎町のM I L A N Oについては、シネシティ広場周辺の地区計画がある。昔は歌舞伎町という少し怖いイメージがあったので、誰もが安心して楽しめるエンターテインメントシティといった中で、今回のM I L A N Oの開発が計画されている。

- ・他のホールとの関連性というよりは、シネシティ広場と一体となった屋外型の劇場空間をやっていくという形で考えている。

- ・西新宿は、いわゆるビジネス街で、平日はたくさん人がいるが、土日はなかなか人がいないといったこともあり、平日の昼間だけではなくて休日なども含めて、周辺に住宅もかなりできてきたので、新たな魅力をつくっていこうという方向性である。

- ・例えば中央公園のリニューアルやSOMPO美術館、住友三角広場などもこうした流れの一つである。明治安田生命は、元々ホールがあったことから、建替えに伴って整備するものだと考えている。

- ・まちづくりをどう誘導していくかについては、歌舞伎町は歌舞伎町の個性、西新宿は西新宿の個性、それぞれ生かしながらやっていくといった方向で考えている。

- ・スマートシティについて。西新宿では、東京都が主体となり、スマートシティを行っている。具体的には、道路など東京都が持つアセットに、5Gなどのアンテナを設置したり、社会実験や普及啓発イベント等をしたりしている。

・電波を通すだけでは、通信環境がよくなるだけで、ソフトも一緒にないと意味がない。電波が大容量でつながるといろいろなことができるが、どういうニーズがあって、こういったところがまちにとって本当に受け入れられるのかというところで、自動運転のまち中実験やキックボード、イベントみたいな形でいろいろしている。

・紹介した再開発計画は、かなり長期的なものなので、計画が具体化し、竣工する頃には当然5Gはできていて、6G、7Gになっているかもしれないので、そういった技術の進展を踏まえながら、計画が進んでいくと考えている。

・拠点再整備方針の中に「次世代の技術に果敢に挑戦する」とあるが、具体的にこういったものを考えているのかについて、今の電波みたいなところも含めて、例えば災害時の対応なども、世界一の乗降客数を誇る新宿駅なので、駅に滞留者を集中させないような情報発信がある。

・新技術については、これからの進展にもよるが、エネルギー、環境、モビリティみたいなところ。様々な分野で、長期的な計画が進む中で、技術の進展があるので、そういったものをうまく取り入れながらまちづくりをしていこうと。そういう方針をつくっているところである。

・今日の質問にあったようなことを、簡単で構わないが、まとめていただきたい。

・特に、現在でき上がっているもの、いずれ近い将来できるように既に着工してあったりするもの、スマートシティみたいな遠い将来にこうなるもの、ということをはっきり分けて、今日のような資料を事務局に作っていただきたい。そう詳しくなくてもいいが、今日の委員の質問に答えられるような形のものを考えていただきたい。例えば、駐輪場をどこに置かなどは、実際に使う人にとっては大きな問題になるから、「こういうことを考えています」ということも含めてお願いしたい。それを委員に前もって送っていただきたい。

・各地区計画を大事にしながらまちをつないでいくというのは大変よく分かった。この会議は文化芸術に関わる会議なので、まちづくりの方向性のところに文化に関する記述が出てこないというのは、気にかかっている。

・こういう大きな新たな開発をするときに、新宿区としてどのようにそれを文化的な振興につなげていくのか。そのあたりの記述も何か加えていただけないのかということだけ少しお伺いしておきたい。

・まちづくりのときに当然、利便性などはあるが、文化のことも考えてやっていただきたい。それがどう反映するか、今すぐにか、あるいは将来こうなるというようなことも含めてお答えいただきたいと思う。

・先ほど表示、標識のお話があった。案内サインを変更したり、色を統一という話だったが、その仕組みに気付いている人がどれだけいるのか。それが本当に役立っているかというのは、少し疑問に思う。

・案内表示とかを工夫するだけではなく、エリアごとに案内所を増やす。対面で話すほうが

非常に分かりやすい部分もあるので、もし増やせるなら、検討をお願いしたい。

- ・それは大事だと思う。外国なら、駅前にツーリストビューローがある。小さくて構わないが、人がいれば。新宿駅は出口がいっぱいあるから大変だが、どうすればいいかを考えていただきたい。

（事務局）

- ・まちづくり関係についていろいろご質疑をいただいているが、担当2課で調整がつく話と、区として他課をまたぐもの、それから、ソフトの部分については、文化をどのように展開していくのか、また、観光的な施策をどのようにやっていくのかは、文化観光課として考えていく部分だと思う。

- ・今日のお話は、資料の再度の提供ということもあったので、事務局で少し調整をさせていただいて、次回お出ししたい。

- ・先ほどの文化のところの書込みがないのではないかということについて、これだけでは少し薄いと言われてしまうのかもしれないが、新宿グランドターミナルのコンセプトの中で、交流や連携の部分で「人・文化・情報・技術」の接触が融合を生みとか、交流の部分では「異業種、異文化の垣根を」というようなところも記載させていただいている。

- ・この会議では、少し書き方が薄いのではないかなといったご指摘はあるかと思うが、かなりの長期的な計画になってくるので、今日のご意見も踏まえながら、まちづくりを進めさせていただければと考えている。

- ・多分こういう記述はどこのまちづくりでも出てくると思う。そうではなく、新宿の文化の歴史をどう捉え、今後どう発展させようとしているのかという理念や思想、コンセプトのあたりである。願います。

- ・まちの将来像は、なかなか細かく書いてあるが、特に文化芸術にということが分からない。それが分かるように、一般の方ではなく、この会議のための資料として、それも含めていただきたいと思う。

- ・広場というのは動くばかりではなく、とどまる場所。つまり駅だと待合せなどが。そういうときに目印になるような建造物、建物や、彫刻とか、そういうものに芸術的な配慮をしてほしい。そういうこと。

- ・場所として、モニュメントみたいな形、あるいは海外ではよくやる芸術作品が並んでいた。そこに新宿的な要素を取り込んだらいいと思う。

- ・いろいろ注文が大変だが、それでお考えいただければと思う。

3 議事（要旨）

（1）前回会議の内容について

資料1に基づき、前回会議（令和3年3月30日開催）の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。

(2) 報告事項

「私たち区民」による文化芸術振興の重点項目に関する主な取り組みについて
資料2-1及び資料2-2に基づき、事務局が説明を行った。

(3) 調査審議事項

資料3-1、資料3-2、資料4及び資料5に基づき、事務局が説明を行った。

(4) 意見交換

(5) その他

【以降、意見交換】

- 確か数年前に、この会議でSNSというかICTを区内の団体が使っているか、使いこなしているかという議論があり、アンケートを実施したことがあった。
- そのときに、資料にあるように、人がない、お金がないという課題がでた。何らかの取り組みをSFM協議会も含めてやろうかというところで、コロナになってしまったと思う。
- ICTは、資料にあるが、動画配信、プロモーション、事務の効率化、あと、アーカイブ。アーカイブの問題はあまり深掘りをしていないが、アーカイブの効果みたいなこと、どこまで価値があるのかというところがある。
- 私どもの周りで議論をしているのは、確かにプロモーションの効果はある程度あるが、多分動画配信をむやみに続けていくこと自体に、どれだけの意味があるかというような議論が限界というか、そこら辺の議論のほうが多いような気がする。
- コロナ禍で2年、まだ試行錯誤というか、本当に見通せない状況という中で、どうしたものかというのがあり、その辺は、オーケストラの動画配信や、EPADの舞台芸術のアーカイブ化があるので、ICTの、最初にある目的、何のために活動するかをもう少しきちんと押さえて、その上で具体的な取り組みの方向性を考えたほうがいいのではないか。
- やるのなら、SNSとか、新宿文化センターで実験するとか、SHIN-ONSAIでやっているライブハウスで実験するとかがあるが、皆さんと意見交換させていただいて、考えたほうがいいと思う。
- 国内外の美術館と一緒にICTを使って、鑑賞環境自体をよりよくしていくかというか、新しくしていくかということ、主要な業務として長年やってきた。
- その経験から、ICTは手段にすぎないので、何をまずやるかということ、目的を絞り込んだ上で、少し小さなところから実験をして、その目的がどんな成果を達成されたいのかというか、何を確かめたいのかということを確認しながら、そこを、成功事例をもってして、他のところに取り組みを広げていくようなことをするのがよいのではないか。
- 例えば先ほどの新宿区のまちの話でもあるが、いらした方にとって、滞留をする上においても、その利便性を高めるような工夫に使うICTは違うし、来ていただくためにはどのようにというプロモーションのような話にもなるので、そこはもう少し議論すれ

ば、手法はいろいろやりようがある。展開できる場所もそれにふさわしいところを選んでいけばよいと思う。

- コロナで出かけられない中、オンライン上で文化芸術との接点をいかにつないでいくについて、生活者の側と文化芸術を提供している側、両方の試行錯誤がある。
- 私どもも、自主事業でもそうだし、実際に文化セクター側との仕事の中にあっても、リアルとバーチャルでどうということも含めて、まだ何がよいということが試行錯誤の段階にある。
- 文化とのアクセスを途絶えさせないというのか、アクセシビリティをいかに途絶えさせないかは非常に重要という声はよく聞くので、アーカイブ云々ということも、今なされていることが正解かは別として、動画の配信等々も許される限りにおいては、継続的にしていくことも考え方としてあると思う。
- 先ほど話に出たので、アーカイブの話をさせていただく。
- コロナ禍によって芸術の世界全般が大きなダメージを受けたと思う。舞台芸術界も劇場で演劇が見られなくなる中、文化庁が文化芸術収益力強化事業を立ち上げた。
- EPADは、緊急事態舞台芸術ネットワークと寺田倉庫が一緒になり、文化庁の文化芸術収益力強化事業に採択された事業。文化庁のお金を使い、対価として協力金を払うような形で全国の劇団や劇場から舞台公演の記録映像を収集し、著作権処理までを行う。
- 演劇博物館は、収集された映像を全て寄贈いただき、アーカイブを構築した。そのアーカイブ化された記録映像の情報検索サイトとしてJapan Digital Theatre Archivesを開設した。これは、劇場で演劇を見られない間にアクセシビリティを保つことなのだが、演劇にとにかく触れ続けていただく。そして、演劇への関心を維持していただき、コロナ禍が収束したときに劇場に戻っていただく。あるいは、新たな観客を開拓して、コロナ禍が収束したときに劇場に誘導することを目的としている。
- そのため、演劇を知らない方でも、偶然の出会いで様々な演劇に親しめるようにインターフェースに工夫をして、ビジュアル的にも演劇に関心がなくても少し触ってみようと思うようなものを目指した。
- オープン初日はサーバーがダウンするほどのアクセスがあった。サイトでは映像自体は見られないが、事前予約制で、演劇博物館でほぼ全ての映像を見ることができる。権利処理が済んだものは、検索サイト上で約3分のダイジェスト映像を見ることができる。この約3分が意外と長いが、かなり使っていただけにいると思う。
- 私たちの課題は、これをどう活用していくかということ。演劇ファンには使っていたけど、一般の方々に存在を知っていただくため、様々な工夫をしている。
- EPADが収集した映像の幾つかは、国際交流基金のお金で6カ国語の字幕を付けて無料配信をしている。素晴らしい取組みなのだが、動画の平均視聴時間が5分とEPADの事務局の方から伺った。

- 日本を代表するようすばらしい演劇作品が無料で見られても、結局5分しか見ない人が多いという現実を踏まえて、どのように演劇文化を普及させていくかを考えなければいけない。
 - Japan Digital Theatre Archivesを知っていただくことが大事なので、視聴時間が5分ということを考えると、私たちのサイトで3分動画を見せているのは、割といいことだと思う。
 - 3分で、むしろ関心を持っていただくことができるのではないかとかも考えるので、その3分の映像を2次利用する。劇団の許可をいただく必要があるが、3分の映像を使ったイベントを何かできないかと考えている。
 - 例えば、文化芸術を単に配信することはすごく増えているが、単なる配信だけではなかなか文化が伝わっていかないということもあり、むしろいかに配信に引き寄せるかのほうが重要
 - もちろん宣伝もあるが、宣伝だけではなく、デジタルデータだからこそその2次活用があり得るが、デジタルデータだけでは、やはり生の映像や生の公演には及ばない。
 - デジタルデータならではの、2次利用や2次創作、活用の仕方があるので、何かそういうものを開発していくことで非常にデジタルデータを使った豊かな道が拓けていくのではないかと考えている。
 - そういうことを区としてどうやっていくかということだが、新宿区の、これまでの文化のあり方ということを見ると、そういう既存のものを自由に活用していくのは、新宿区のあり方にすごく向いているのではないか。
 - もちろん、新宿区の中にすばらしい芸術もあるが、一方で若者の雑多な文化みたいなものもずっと育ててきた土地柄なので、そういう場が設けられないかと考えたい気がする。
 - デジタル化した文化芸術と、実際のイベントを組み合わせるようなものとか、それはSFMとかも、いろいろ考えてくれるのではないかなと思うが、そういう新しい文化の流れのようなものを、新宿区としてつくっていけないかと考えていけるのではないか。
-
- 映像は、オーケストラの中では一番先に撮ったと思う。ニコニコ動画を使った。ホームページからも入れるが、ここの顧客の人たちが見てくれているということで、最初に無観客で行ったときは20万人だったが、平均すると2万人ぐらいの方々が、延べで見ている。
 - 最初は危惧したが、無料で流すとお客さんが来なくなるということは全くない。楽しみ方が全然別ということ。
 - クラシック音楽になじみがない方、どうやって切符を買ったらいいのか、どこに行けばいいのか分からない方々には喜んでいただけたらと思うし、北海道から沖縄まで全国を網羅している。
 - ただ、ニコニコ動画は、海外には少し弱いというか無理。海外からも見られるが、日本語

の案内しかないのがネックだと思う。SFMもやれるなら、動画配信したほうが良いと思う。区役所のホームページからアクセスできるようにすれば、何かのきっかけで見ることがあると思う。

- 東京交響楽団の名前を日本全国に知らしめることもでき、プレーヤーの顔も覚えていただけ、意外と寄附も増える。無料ということもあり、「こういう活動を応援したい」ということもある。
 - 演奏が悪ければどうなるか分からないが、幸いにもよい演奏をしているので、寄附が増えることもあり、マイナスイメージは何もない。
 - 1回150万円かかるが、スポンサーが負担してくれるので持出しはない。そういうスポンサーが捉まえられると、いいことづくめかと。
 - プレーヤーからすると、生配信なので、最初は大変緊張を強いられたが、自分たちも映像を後で見るだろうから、こういうときにはこういう表情をしたほうが良いのではないかと、自分で勉強すると思うが、だんだん慣れてきている印象がすごくある。
 - 悪いことは一切なく、いいことづくめと。お客さんがそれで倍増できるかというところではないが、徐々にだと思う。それでやっていければと思うので、SFMでも小さなこと、先ほどの話の3分でもいいので、やって何の損もないと思う。
 - まちづくりの話だが、地図とか案内所を作るという話があったが、基本的にはみんなGoogle Mapで移動する。海外の人はもうそれだけで、私も海外に行って、分かんなければGoogle Mapで行き、案内所に案内板を見ていくということはほぼない。なので、通信環境を整えるほうがベストかという気がする。
-
- ICTに関して、区の実践で非常に印象に残っているのが、令和2年12月～令和3年3月に映像配信した「漱石と八雲」で、能楽師の語りや舞いもすばらしかったし、普段あまり聞くことのない笛とか琵琶の演奏もすごく印象的で引き込まれた。
 - 作品の解説とかも非常に面白かったので、もっと多くの方に聞いていただければと思ったが、これをきっかけに漱石山房記念館に足を運んでいただけたらと思う。その動画をどの年齢層が見ているのか、もっと区として調査していけば、より有効的な活用方法につながると思った。
 - 10月のSHIN-ONSAIのオンラインライブを見たが、無料で普段自分が聞くことのない音楽のジャンルを聞くことができ、本当にありがたい企画だと思った。
 - ライブ中にチャットがあり、すごく盛り上がっていたのも印象的だったが、「無料オンラインライブにもかかわらず、見ている人が少なくてもったいないね」という書込みも多々見られたのが印象的だった。今後は、イベント周知の工夫していかなければと思った。
 - 先日、音楽業界のウェビナー参加したときに、すごく印象的だったのが、歌手のYOASOBIさんや瑛人さん。ヒットしたのがマイクロインフルエンサーや、マイクロコミュニティによるものとおっしゃっており、確かにSNS時代になって、多くの人に発信す

- るよりも、マイクロコミュニティとかを企業が重視するようになってきていることを踏まえて、文化芸術もマスよりももっと個にフォーカスして発信していく必要があるとも思う。
- インスタグラムとかも、今は「映え」というよりもだんだんコミュニティに変化していて、共通の趣味や話題でつながっているとかということも重視しながら、区としてもただ発信するだけではなく、もっと活用方法を検討していく必要があると思う。
 - やはりICTというのは道具にすぎないと思うので、どのように活用するかという方向性は考えていかななくてはいけないと考えている。
 - ICTの活用によって、それをきっかけに好きになる、文化に触れる人がいることも事実だし、元々文化芸術が好きだった方がICTを見ることによって、また新たな魅力に気付くこともあるので、双方向ということは本当に大事なことだと思う。
 - ICTで発信していくに当たり、どうしても欠かせない世代がZ世代と言われる方たち。インスタを使っているが、少し前はGoogleで「ググる」とか言っていたが、インスタを使っているいろんなことを発信したり探したりするので、「タグる」のように言われているそう。
 - 彼らは、本物志向があり、かつレトロなものにもものすごく興味を持つという傾向があるようなので、先ほどの新宿の話で、古いものがあってということだったが、それが必ずしも悪いものばかりではなく、逆にいいものと捉えていく。純喫茶にすごくハマって発信している人もいたりするので、彼らの力を使うというのはすごく大事なのかなと思う。
 - SHIN-ONSAIに関しては、チャットで「みんなが見てくれるといいのに」という話があった。Z世代の話に戻ると、彼らは社会貢献にすごく意義を持っている世代と言われているようで、自分が何かをすることによって役に立っているということが、すごく起爆剤になるようだ。
 - 例えばSHIN-ONSAIも見ることによって誰かを救えるとか、あるいはどこかに行くことは何かのためになっていると言うと、無条件で「やりたい」と飛びつくようだ。だから、そういう力も借りていって、どんどんと発信していくことが必要と思う。
 - こちらから無理に「こうしてください、ああしてください」と言ってもなかなか動かない世代で、ただ気に入ったことに関しては本当にずっと突き進んでいくような世代でもあるので、彼らの力を借りるというのはすごく大事なことになるのではないかなと思う。
 - もうコロナ禍の後を考えるべきであると思う。コロナ禍から、人が集まることの重要性というものが分かった。それができないから、デジタル化という中に、何か新しいそれに代わるものを求めているのだと思うが、先のオーケストラの話は成功例であると思う。ということは、その成功例は限界があるということだと思う。
 - 例えで言うと、新宿区の雑多文化の中に外国の、特に東南アジアの方々がたくさん来ておられ、その文化を紹介するときに、ICTで、3分でも5分でもいいが、文化の紹介のよ

うなものを、今つくっておく。

- コロナ後は、それをどこかで実際に展示したり、紹介する場所があればいいと思う。その場所が新宿歴史博物館で可能かは少し疑問だが、とにかくそういうコロナ後のことも考えてもいいのではないか。
- 実は専門部会では資料4で分かるかと思うが、非常にたくさんの視点が出て収束しなかったというか、発散してしまったというところがある。
- 改めてICTを使って何をしていくのかということだったと思うが、コロナの影響が非常に大きく、収束したとしても、多分この変化は不可逆なのではないかとよく言われている。
- その変化は何かというと、かつてはデマンドサイド・お客さんとサプライサイドがくっきり分かれていて、サプライサイドからいろいろ働きかけ、デマンドサイドからの反応があるという話で終わっていた。
- ところが、オンラインではボーダーがなくなり、聴衆が発信する。また、それが他につながっていく。そのフィードバックが、アーティストに、サプライサイドに戻っていくというように、大きな役割分担がなくなる。消滅するというか、全員がプレーヤーみたいな世界が出現するのではと言われていて、そこでICTが非常に大きな役割を担えるのではないかと注目されている。
- 逆にサプライサイドから言うと、マネジメントツールでもあるという大きな流れがあり、オンラインの話では、家でアクセスできるという非常に大きなメリットがあるが、そのコストは誰が負担するのかが、専門部会で大きな議題になった。スポンサーがいたり、国がお金をくれるのならすごくありがたいが、そういう恵まれたところごく一部。
- ある意味、総合力の差が出てくる。ものと人とノウハウ、財力、あとブランド力。そういったものがあるところは、このチャンスをやうまく生かして次につなげることができるが、どうしてもそこから漏れてしまうところがあるのではないかという議論があった。
- それは小規模で新規参入の、どちらかという若い世代、つまり次を担う人たちが漏れてしまうのではないか。そこが1つ大きな課題として浮かび上がり、資料4の人材を育てる、場をつくるというのは、ネクストジェネレーションのために、ICTをやうまく使っていく必要があるのではないかというところにつながってきた。
- その方法はと言うと、技術の進展は非常に早く、少し前はツイッターやFacebookとかでやっていたのが、今はメタバースになっている。
- そういう状況の変化の中で、区が「こういうもの」、行政が「こういうやり方で」というのはなかなか難しいから、この際、クリエイティブな若い人たちに様々な取組みを1回実験的にやってもらったほうがいいのではないかというところに落ち着いた。
- 改めて何を支援するかという部分だが、この資料の根底にあるのは人材育成。ネクストジェネレーションにつなげていく、文化芸術につなげていくために、ICTをテコに使う。

- 大手で、ブランド力やお金もあって、スポンサーもあるところは全く問題なくやっていると思うので、そうではないところに焦点を当てたらどうかというのも資料4にある。
 - なかなか方向性が見えにくいところもあるが、大きな変革期にあるわけだから、アフターコロナにソフトランディングするための変革期は、少し社会実験に果敢に挑戦することであってもいいと。
 - そうは言っても公金を使うので、何でもオーケーということではないというところで、この意見が終わっている。私自身はSFMもあるので、もちろん動画配信、あるいは広報、宣伝、アウトリーチというような形でも構わないと思うが、いろいろなアイデアを、提案型の支援をしたらどうかと思っている。
 - もう1つ、実はデジタルに広がったという部分もコロナの影響ではあったが、外国の事例を言うと、劇場というかサプライサイドがデマンドサイドに出向いていく。例えば小規模編成で、短時間でいろいろなところでパフォーマンスをやっていくような試みも非常に増えた。成功かどうかまだ検証できていないが、いろいろなチャンネルで芸術文化を届けようという動きがある。
 - 先ほどのまちづくりの話の中で、デッキができたり、広場があって人が滞留できる場所がある。こういったところは非常に大きな可能性があると言っていいと思う。
 - ぜひまちづくりに、文化とか芸術、パフォーマンスその他も組み込んでいただくと、いろいろな国の多様な文化も、パフォーマンスや展示ができる。
 - 今日東西自由通路を見たが、ウエストサイドストーリーの宣伝だけで、少しもったいないという感じだった。そういうまちづくりとより近い形で、しかもICTも使っていくという方向が見えつつあるかなという感じもしている。
-
- いろいろなご意見をいただきました。これも踏まえて、まだ方向性が十分に見えていないが、専門部会でいろいろ議論をしてみたいと思う。
 - 今日の意見で大きな問題が、ICTをどう使うか。古い世代では、単純にICTとリアルは対立すると思っていた。そうではなく、ICTとリアルなものをどのようにつなげるかという問題。これもいろいろ考えていく。それに関しては行政のほうにもいろいろ考えていただくことがあろうかと思う。
 - 新しいICTがいろいろと出てきてが、芸術文化の普及、それが世代を超えてつながる大きな役割を果たす。それは大変重要なこと。
 - どういう形で使い勝手がよくなるかということはもちろんだが、ICTが苦手な世代がいる。世代だけではなく、人によっても苦手だという人もいて、それをどのように取り込むかということを考えなければいけない。
 - それ以上に、ICTによる芸術文化との接触は、知識、それから様々な内容について理解は深まる。しかし最初の頃に言った、ICTというか複製とリアルの問題。リアルというのは知識とか理解に訴えるのではなくて感性に訴える。「何だか分からないけれども何

がある」というものが、これが芸術の本質だと思う。文化になると、それは理解できるようになればいけない。

- 音楽は、作曲家がどうして、どういう形で、音楽理論も非常にあって、対義語や和声とかということがあり、それで大変優れた音楽だなということがある。しかし、そういうもののないころの音楽でも心に訴えてくるものがある。それは何だろう。芸術というのはそういう本質を考える必要があろうかと思う。
- それは、時間も世代も人々の違いも越えたもの。それは、芸術に携わるのに大変重要だと思う。それに今のICT技術をどう使うか、ICTそのものに、新しい芸術的な感覚に訴える何かがあるかもしれない。そういうことも含めて、よく考えていくということが、この会議では重要ではないかと思う。
- それは大きな問題だが、それに関して行政のほうにいろいろご注文、そういうことを考えてほしいということがあれば、大いにしていただくことがあると思う。非常に面白い疑問が提起された。次回以降は、それも含めて考えていきたいと思う。

4 事務連絡等

第4回目の会議は2月～3月頃の開催予定とし、日程や会場等については別途事務局から連絡することとした。

5 閉会

会長の挨拶をもって、午後4時に閉会した。

*SFM：新宿フィールドミュージアム